

2 自殺死亡率の推移

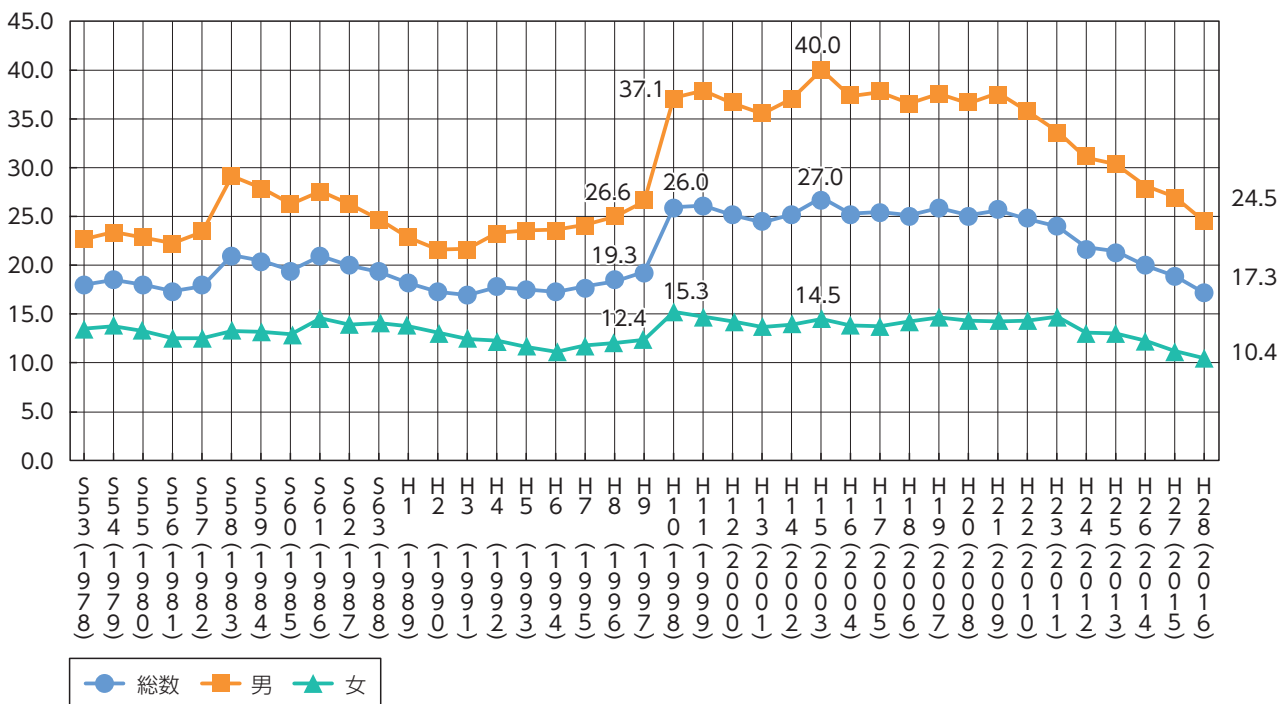
人口10万人当たりの自殺者数（以下「自殺死亡率」という。）の推移は、自殺者数の推移と同様の傾向を示している。

(1) 警察庁の自殺統計に基づく自殺死亡率の推移

自殺死亡率の推移について、自殺統計によ

れば（第1-3図）、昭和58年の21.1を第一次のピークとした後、平成3年には17.0まで低下した。その後、9年の19.3から10年に26.0と急上昇し、以後15年の27.0をピークとして23年の24.0まで25前後の高い水準が続いていたが、24年以降は低下しており、28年は17.3となった。

第1-3図 自殺死亡率の推移（自殺統計）



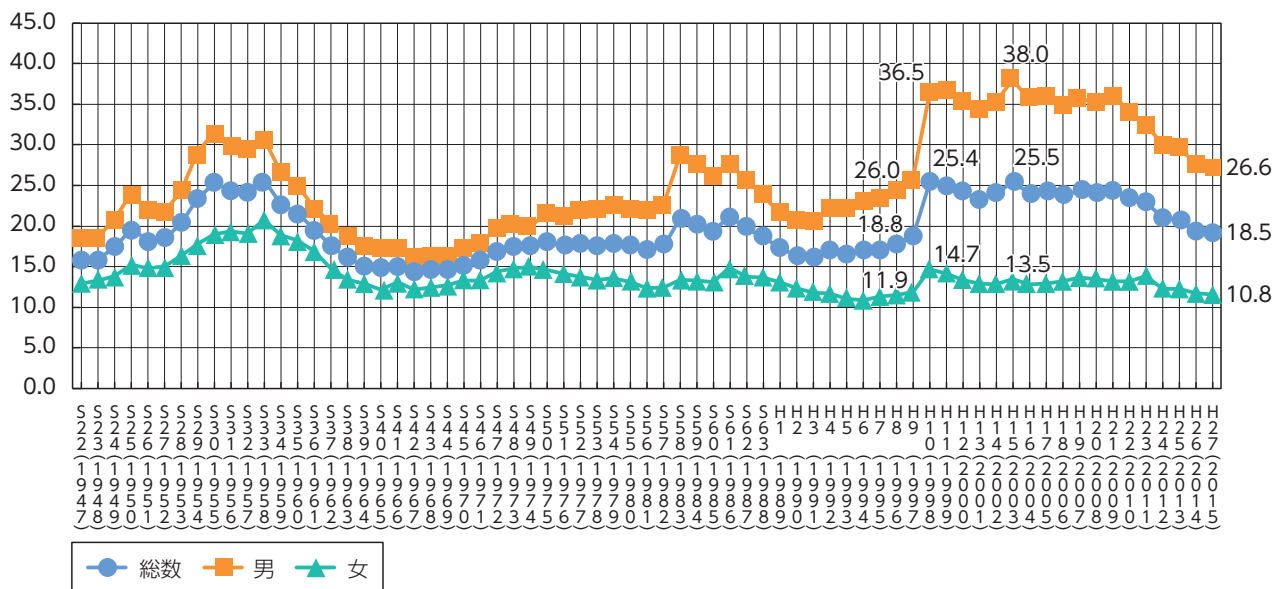
資料：警察庁「自殺統計」、総務省「国勢調査」及び総務省「人口推計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(2) 厚生労働省の人口動態統計に基づく自殺死亡率の推移

自殺死亡率の長期的な推移をみると、人口動態統計によれば（第1-4図）、昭和33年の25.7を過去最大のピークとする最初の山を形成した後、40年代前半に15を下回る水準にまで低下した。その後、57年までは15~18の間

で推移した後、緩やかに上昇し、61年の21.2をピークとする二つ目の山を形成した後、平成元年からは16~19の間で推移していたが、10年に前年の18.8から25.4に急上昇し、以後15年の25.5をピークとして、高い水準が続いていたが、22年以降は低下を続けており、27年には18.5となっている。

第1-4図 自殺死亡率の長期的推移（人口動態統計）



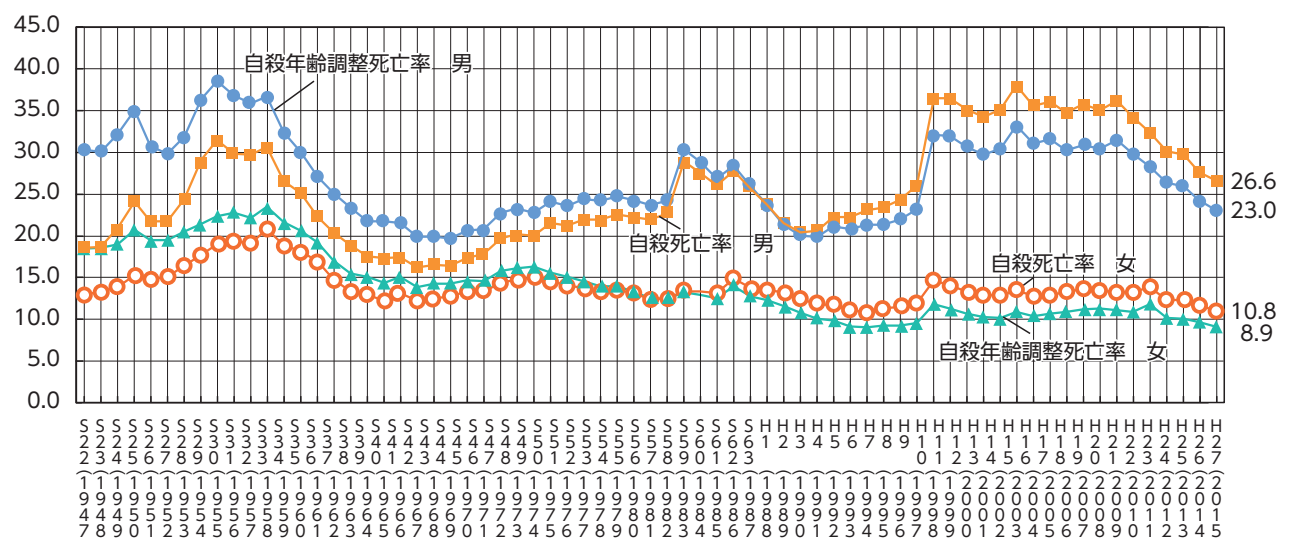
資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(3) 自殺年齢調整死亡率の推移

人口の年齢構成の変化の影響を排除した自殺年齢調整死亡率をみると（第1-5図）、男女とも基準年となる昭和60年頃を境に自殺死亡率と自殺年齢調整死亡率^{※1}とが逆転し、

自殺年齢調整死亡率の方が自殺死亡率よりも低くなっている。これは、高齢化による人口構成の変化が影響しているものと考えられる。

第1-5図 自殺年齢調整死亡率の推移



注) 基準人口は、昭和60年人口モデルである。

資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

※1 「年齢調整死亡率」とは、年齢構成の異なる人口集団の間での死亡率や、特定の年齢層に偏在する死因別死亡率について、その年齢構成の差を取り除いて比較ができるように調整した死亡率をいう。